

2014三高の言葉

本紙編集部が選んだ...

- ★90周年
- ★楽校
- ★Go for it!



↑体育館前のイチョウの木(11月上旬)。イチョウは雲南市の木に選定されています。確かに目につきますネ。

地域に支えられ 地域と自分の今と将来を見つめ直した秋

秋は学校でも地域でも各種イベントや会合が目白押し。

保護者の皆様もご多忙の中、三刀屋高校で開催しました諸会合にご出席を賜り、厚く御礼申し上げます。引き続き、学期末の保護者面談もよろしくお願いいたします。

また、今年度初めて計画しました岡山方面へのPTAキャンパスツアー(11/10生徒は代休日、3大学訪問)には保護者・生徒あわせて17名の参加を得ました。日帰りの強行日程ではありましたが、通常のオープンキャンパスとは異なり、複数の大学の普段の学生生活にも触れる機会となり好評を得ました。以下は、参

ゆめ 進路をみつめた雲南三高の秋

1年生は9分の2学期
2年生は9分の5学期
3年生は9分の8学期 } を経て、10年(30学期)後の自分が見えてきたでしょうか



↑三高生へのエールを形にした恩田校長作のフラッグ。英語教員らしく表現した“Go for it!”とは、夢に向かって頑張れ! すすめ・行け! という意

御礼

秋は学校でも地域でも各種イベントや会合が目白押し。

各種行事へのご参加 ありがとうございます

(本日からの保護者面談、本日配布の「学校評価」へのご協力もよろしく願います)

初のPTAキャンパスツアーも開催

校長、教頭がともに新任、さらには総務部・教務部・進路指導部の各部長も交代してスタートした平成26年度は、学校創立90周年の節目を祝う記念行事も重なって多忙感は拭えなかつたものの、新体制と言えらる中で例年以上に試行錯誤・一歩改善の姿勢をすすめた年でした。同時に、本紙「蒼雲」とホームページをリニューアルし、学校の様子を分かりやすくお伝えする事にも腐心しました。単に状況を伝える媒体としてだけでなく、生徒・教職員自身が自分の立ち位置を確認し、自分と学校のあるべき姿を考える拠り所になることを期待しています。

保護者・地域の皆様へ



MITOYA

島根三刀屋
県立高校

蒼雲

学校だより
第90号

【発行所】
三刀屋高等学校
〒690-2404
雲南市三刀屋町
三刀屋912-2
TEL: 0854-45-2721
FAX: 0854-45-5630

【印刷所】
有限会社木次印刷
〒699-1312
雲南市木次町山方
630-5
TEL: 0854-42-8133
FAX: 0854-42-8155

受験生へ

受験は粘り勝ち!
大学入試センター試験
まであと1か月
夢を忘れず
最後まで頑張ってください

今年も大変

お世話になりました
来る年が皆様にとって
実り多い年で
ありますように
お祈り申し上げます

三刀屋高校教職員一同



岡山大学での概要説明の場面

加の皆様のご感想(抜粋)です。

▽(代休日の)月曜日で、大学生さんたちの講話や普段の学校生活を見学できて良かったです。▽在学生と話をする時間がもう少し欲しかった。受験へのモチベーションを上げることができてとても良かったです。▽学生のナマの言葉で体験を聞くことができ、大人の私たちがさえるものが多かったです。1、2年の頃に我が子といっしょに行けると良かったです。

生徒の皆さんへ

「皆さんが想像する以上に、地域の方々は皆さんに期待しています」

秋は、三刀屋高校総合学科のキャリア教育関連プログラムが盛りだくさんでした。その一つひとつが、皆さんの将来につながるきっかけ作りになっているはず。そして、皆さんが想像する以上に、地域の方々は皆さんに

期待しています。期待されているからこそ、60以上の事業所で地域産業研究実習(インターシップ)も受け入れてもらっています。そのことを感じ取ってもらいたいと思います。期待に応える三高生であってほしいと思います。

つながろう三高
つながろう雲南

如己愛人

←12月10日、地域産業研究学年発表会で石橋学年主任が1年生に向けた言葉。

今号の結果記事は先週末12月12日分までです



剣道

県高校選手権

3年生も出場可能な今大会の団体戦は通常の試合とは異なり、勝者は負けるか引き分けるまで対戦相手を変えて戦うため、一人で対戦チームの5人全員に勝つ「5人抜き(5人残し)」も可能な試合。(11/1~2、大田総合体育館)

卓球

県高校新人戦

(11/6~8、平田体育館) 多くの部員が高校入学後から競技生活をスタートするたため、この時期の試合では上位進出が難しい。来春を目指して頑張ってもらいたい。【団体戦予選リーグ】▼男子 三刀屋3敗 ▼女子 三刀屋4敗

バレーボール

県高校選手権

(11/14、情報科学高校) 第3セットはミスの連続から逆に相手に乗せてしまう展開となってしまった。「1月の新人戦に向けて、一つひとつのプレーの細かいところまで意識を持って練習したい。」(野々村監督談) ▼女子1回戦 三刀屋1・②松江東

バスケットボール

男子 (20年ぶり) 第3位

準々決勝 延長戦の粘り勝ち

今大会で三刀屋男子がベスト4入りしたのは在校生が生まれる前の平成6年以来のこと。実に20年ぶりの3位入賞の快挙となった。

3年生も出場可能な今大会は12月に開催される全国選抜大会(ウインターカップ)の

バスケット部の記念樹(御衣黄)



県高校選手権

(11/7~9、カミアリーナ)



県予選を兼ね、男子は31校、女子は28校が出場して熱戦が展開された。

男子は本校も3年生のうち3名が出場。準決勝では今年の県

総体優勝メンバー6名を擁する松江西高には及ばなかつたものの、準々決勝では5分の延長戦で2点を守り

抜く粘り勝ちをおさめるなど、今年の男子バスケット部の飛躍を象徴する大会結果となり、チーム大黒柱の和田翔さん(3年)

がベスト5に選出された。

【男子】 ▼1回戦

三刀屋 ⑧3 68大東 ▼2回戦

三刀屋 ⑨1 51松江南 ▼準々決勝

三刀屋 ⑤7 55出雲工業 (延長戦) ▼準決勝

三刀屋 72 ⑩6 松江西 ※第3位 一方、女子は新チームになつ

ソフトボール

第18回中国高校新人戦

(11/15~16、岡山県久米南町・美咲町)

【女子】

▼2回戦 三刀屋0・⑥鳥取城北 (鳥取)

【男子】

▼1回戦 三刀屋0・⑦笠岡工業 (岡山) 5回コールド

て最初の公式戦ということから動きに硬さも見られ、ミスも重なって得点差を広げられてしまった。まだスタートに立ったばかり。冬場の走り込みでまずは一勝を目指してもらいたい。

【女子】 ▼1回戦 三刀屋 48 ⑧2 松江農林

吹奏楽

本日は図書館でミニコンサート

夏の野球応援が終わると、8月には年間最大の目標である吹奏楽コンクールに力を注いで燃え尽きたかと思つたら、すぐに学園祭と続いて吹奏楽部はゆつくりと休み間もない。吹奏楽部は体育部並みの体力も必要だ。

ミニコンサート

秋には前号でも紹介した通り、週末ごとに市内各地の地域イベントで三高サウンドを披露。11月も市内中野地区の文化祭に出演させていただいた。疲れる。でも喜んでもらえるからやめられない。そんな気持ちで頑張り続ける吹奏楽部を応援したい。

今日は図書館でミニコンサート、魅せる面々を見守る宇山サントさんがご褒美をくれることだろう。

から発揮できるよう、「立ち上がり不安定さを克服したい」(三嶋監督談)。

男子は県内2校枠により安来とともに出場したが、正式部員8名での戦いが続いており、今大会でも厳しい結果となった。高い意識を持って冬場の練習に臨んでもらいたい。あわせて来春の新生生の入部を待ちたい。その前に、現1年生の入部を期待したい。

JRC

第5回赤十字救急法競技大会

(11/2、県立武道館)



三角巾包帯法の部に出場した三刀屋

初出場で2位、3位

日本赤十字社島根県支部が主催する標記大会は、心肺蘇生の部と三角巾包帯法の部の2種目について、各3名ずつがトーナメント方式により競技を行うもので、今年心肺蘇生の部に25チーム、三角巾包帯法の部に16チームが出場して松江市の県立武道館で開催された。

本校からはJRC(青少年)

赤十字)部の2チームが三角巾包帯法の部に出場し、決勝で江津高に敗れたものの、見事準優勝を果たした(準決勝は三刀屋同士の対戦となった)

ために2位、3位となった。なお、本校ではいざという時に備えて毎年、教職員と2年生がAED自動体外式除細動器を使用した救急法講習会を受講している。

文芸

入選

幸村さん(2年)

影山さん(1年)

島根県民文化祭文芸作品

高校生世代「人権の詩」

(11/1、2、県民会館)

第38回島根県高校演劇発表大会

県大会優良賞/惜しくも中国大会出場ならず

部員の創作で挑戦

9月の松江地区、出雲・石見の両地区予選を経て9校が出場した標記県大会が11月1日からの2日間、島根県民会館中ホールで開催された。

三刀屋高校は部員の武内万寿さん(2年)脚本による『羽と心臓と鎧』を熱演。

「逃げたいけど逃げられない。分かってもらえないだろうと割り切ったつもりでいるけれど、本当は誰かに分かってもらいたい。」そんな心の葛藤を象徴する「羽」「心臓」「鎧」の3人を中心に繰り広げられる舞台は、高校生の創作とは思えない重厚な舞台に



(11月1日、島根県民会館中ホール)

仕上がった。3年ぶりの中国大会出場こそならなかったものの、見応えのある1時間の舞台をみせてくれた。

屋掛合分校の演劇同好会が初出場を果たし、永井隆博士を主人公とする『ぼくらのTAKASHI』を演じて審査員特別賞を受賞した。

放送

読文祭放送部門松江地区予選

(11/12、松江市立女子高)

藤原さん(2年、朗読部門)が県大会出場へ

来年度の全国高等学校総合文化祭滋賀大会につながる標記松江地区予選には、本校からは朗読部門に2名、アナウンス部門に1名が出場した。

子著「拒食症の明けない夜明け」の一節を読んで予選を上位で突破。浜田市で開催される県大会への出場権を獲得した。

朗読部門(予選通過)

藤原香玲羅(2年)

また、県大会に出品する番組作品のために、11月には雲南市木次町中心部の石田魚店を訪れて「焼サバ」作り取材した(写真)。地元の名物をテーマにした番組で、上位入賞を期待したい。

また、県大会に出品する番組作品のために、11月には雲南市木次町中心部の石田魚店を訪れて「焼サバ」作り取材した(写真)。地元の名物をテーマにした番組で、上位入賞を期待したい。

9月上旬まで公募された島根県民文化祭文芸作品の審査の結果、本校文芸部の幸村蒼依さん(2年)の詩「ルーズリーフ」が社会人を含めた詩一般の部で入選を果たし、「島根文芸」第47号にも掲載された。

幸村 蒼依

私はノートになれる
私は手紙になれる
授業で役立つ
みんなの思いを伝えられる
すごいでしょ?でもね
私は使い捨て
飾りのあるびんせんにも
まとめられたノートにも
なれないんだ
でも私は大丈夫
使い捨てでも大丈夫
みんなの役に立っているから

ルーズリーフは使い捨て何枚も捨てられる時があるでもね
ルーズリーフは何度もつかわれる
だってみんなの役に立っているから

また、昨年に続いて島根県人権同和対策課が募集した高校生世代『人権の詩』には県内から66作品が寄せられ、同じく文芸部の影山朋未さん(1年)が、祖母の死を悼んで綴った詩「散ってしまった命へ」で入選を果たした。



影山さんの作品を含め、上位入賞作品は島根県人権啓発推進センターのホームページに掲載してあるのでご覧いただけます。

▼島根県民文化祭とは：分野別の県域文化団体と市町村文化協会など46団体が加盟する島根県文化団体連合会が主催して平成15年度から始まり、今年で12回目を迎えました。以前の島根県芸術文化祭にかわる県民文化祭は、未来の文化の担い手を育成し、広く若者を取り込んだ文化祭を目指しており、高校生の個人応募も可能です。

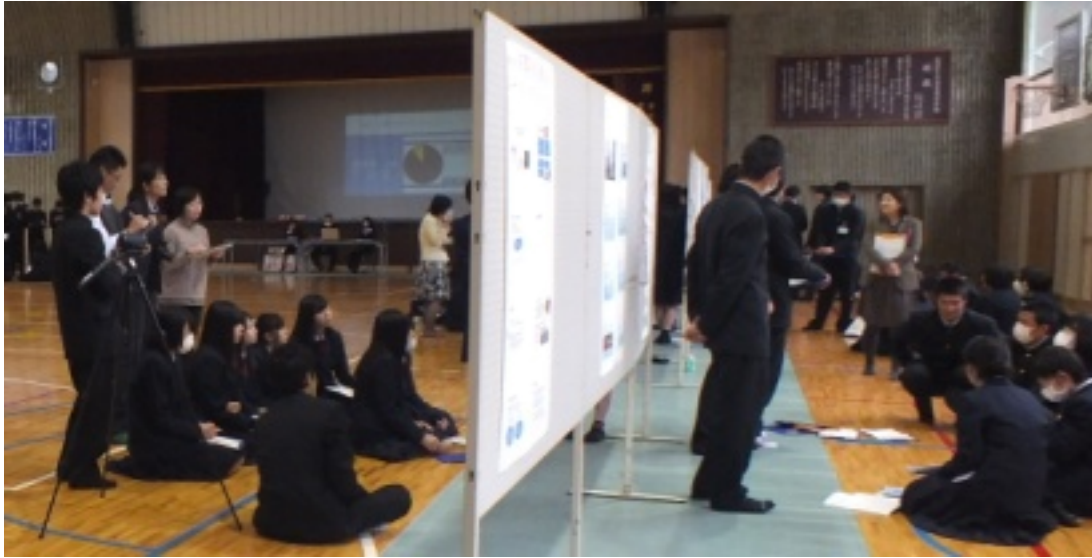
雲南市教育フェスタ2014 地域でつなぐキャリア教育モデル事業

↓ 三高生に助言をいただきました ↓

【1年】授業『大学』では
島根大学より
美濃地裕子氏(入学センター准教授)
学生34名

【2年】「課題研究」中間発表では
矢野俊人氏(県商工労働部雇用政策課)
梅木郁夫氏(雲南市健康福祉部次長)
渡部 喬氏(雲南市産業振興部)
浦崎太郎氏(岐阜県立可児高等学校教諭)

11月8日(土)
in 三刀屋高校



↑ポスターセッションとは
研究発表等の形式のひとつ。論文形式の発表ではなく、発表者が研究内容を模造紙のポスターにまとめて会場に掲示し、ポスターの前に集まった参加者に随時

口頭で説明する形をとり、質問にも応じる。発表のフリーマーケットと呼ばれることもあるが、学校では便宜的に発表者と聞き手を半ずつに分け、時間を区切って移動しながら互いに発表しあう形式をとる。

2年

「課題研究」の中間発表を行いました

(ポスターセッション)

10月の東京研修を経て、1学期に設定した課題研究テーマについて考察を深めた2年生は、ポスターセッション形式で中間発表を行いました。「雲南市教育フェスタ」にあわせて11月8日(土)に実施したもので、

午前中は島根県商工労働部雇用政策課と雲南市からアドバイザーをお迎えしてポスターの仕上げ作業にかかり、午後は体育館に並べたパネルに完成したポスターを掲示し、その前で班別の発表会を行いました。

52班のポスター



52班の例

課題研究テーマ

「地域性に合った住宅」

班員4名(工学部建築学科志望)

■東京での自主研修先

- ①駒沢公園ハウジングギャラリー
・都内最大級の総合住宅展示場
- ②テラジマアーキテクツ
・モダン住宅の建築設計・住宅建築を手がける建築家集団

以下の内容で、10枚のパーツからなるポスターで発表概要をまとめました。

- ①研究テーマ設定の理由(動機)
- ②研究目的・研究仮説
- ③研究方法・研究計画
- ④検証結果・調査結果
・沿岸部で塩害のある地域での対策
・内陸部の積雪の多い地域での対策
・平野で風の強い地域での対策
最後に
・島根県の地域性に合った建築様式とは何かをまとめました

※ 中間発表での助言を参考に分析・考察を深め、今後はパワーポイントに整理して3学期のプレゼンに備えます。



↑岐阜県立可児高等学校の浦崎太郎先生もアドバイザーとして生徒の発表に耳を傾ける。



発表後には、聞き手からの感想や提案が付箋でポスターに次々と貼られていく。

地域でつなぐキャリア教育モデル事業 雲南市教育フェスタ2014

1年 授業『大学』



デイスカッションで将来と今を語り合う

島大生34名来校

11/8

目的

▼大学について知ってもらう
▼目の前の高校生活に目を向けてもらい「今」を充実させる



雲南市教育フェスタ開催に合わせ、11月8日(土)の午後2時間、1年生は島根大学の学生34名を迎えて「授業『大学』」を受講しました。クラスごとのグループデイスカッションを通じて「理想の自分」「今の自分」「その差を埋めるための目標」を高

同日 教員研修

「いま、高校を地域に埋め戻すとき」

浦崎太郎氏(岐阜県立可児高等学校) 決を意識したキャリア教育を実践中とのこと。

放課後の教職員研修に講師としてお招きした浦崎先生は、岐阜県の普通科の進学校で、地元の県や市の首長部局や関係機関との協働体制をもとに、学校や地域の課題解決

少子高齢化と人口減が急速化する今後の地域社会では、学校段階から生徒をより地域に向けさせるきっかけ作りが必要であり、生徒自身が地域社会との結びつきの中で進路目標をつかみ、夢に向かって動き出した事例を紹介していただきました。

1年「地域産業研究」学年発表会 12/10

働くとはどういうことか。仕事において自分に与えられた役割は何なのか。10月に実施した3日間の「地域産業研究」実習(インターンシップ)での体験も踏まえて、自分と地域の今と将来を見つめた1年生。11月の各クラスでのプレゼンを経て、期末試験後の今月10日には代表17名が学年集会でプレゼンを実施し、地域や社会における課題と、その解決に向けた提言を発表しました。



自分をつくる楽校

最終回

11月9日(日) in 三刀屋中学校



中高生がプレゼン

「自分をつくる楽校に参加して」

主催/地域でつなぐキャリア教育モデル事業雲南地区連携推進連絡会

「地域でつなぐキャリア教育モデル事業」の一環として、6月から月一回開催された土曜学習「自分をつくる楽校」。東京を中心に活動する若手の社会人集団アラールの皆さんをコーディネーター役に、ワークショップ形式で「将来になりたい自分」について考えてきました。最終回となった11月には、雲南市教育フェスタの会場で、参加生徒が「楽校」を振り返りました。

参加者の一人 板持加奈さん(1年)の声

人とのコミュニケーションが大切なんだと改めて思いました。これに参加するまで、将来の事とかあまり本気で考えていなくて、今が楽しければそれでいいやと思っていました。でも違った考えの人やアラールの皆

さんの話を聞いて、自分は成長することができました。

何となく海外のことに興味は

ありましたが、話し合いを通じて興味を持ったのは、発展途上

国の人たちを援助する仕事です

少し目標がハッキリしてきました。

これまでは漠然とした高校生活でしたが、今は目標に向かっ

た生活ができています。

今、私の話を聞いて皆さん思ったでしょうが、私は自分の思ったことを言葉にするのが苦手で、自分でも何言ってるんだろうと思うことがあります。アラールの皆さんに自分の言いたいことを引き出してもらいました。自分よりも経験豊富な大人の方とコミュニケーションを持つことは、そういう意味でも大切なことなんだなと思いました。ありがとうございました。

(板持さんが参加した9月は、高校生19名とアラールの皆さん21名が三瓶青少年交流の家で1泊2日の宿泊研修「幸雲南塾 in 三瓶」を行い、自分の可能性や価値観などを話し合い、将来像を描きつけかけました。)

日	曜	学校行事等	部活等
19	金	人権に関する意識調査 終業式 表彰伝達式 1・2年保護者面談(~26) 3年三者面談(~26) 学校評価(保護者配布)	図書館ミニコンサート
20	土	3年北予備F模試(島大)	剣道新人戦
21	日	3年北予備F模試(島大)	
22	月	3年冬期補習	
23	火	天皇誕生日 学校開放	ソフトテニス室内選手権
24	水	3年冬期補習	
25	木	3年冬期補習	
26	金	3年冬期補習	
27	土	3年直前M模試	
28	日	3年直前M模試 閉寮	
29	月		
30	火		
31	水		

日	曜	学校行事等	部活等
1	木	元日	
2015年(平成27年)			
2	金		
3	土		
4	日	3年直前M模試	
5	月	仕事始め 閉寮	
6	火	3年冬期補習	
7	水		
8	木	始業式 課題テスト 学校評価(保護者回収)	
9	金	人権・同和教育SHR	
10	土	土曜補習 学校開放	バスケットボール 柔道
11	日	学校開放	
12	月	成人の日	
13	火	S.C	
14	水		
15	木	2年進研記述学テ 3年学年集会	
16	金	1・2年進研記述学テ	バレーボール
17	土	センター試験 土曜補習	
18	日	センター試験	
19	月	センター試験自己採点	
20	火	3年2次対策補習(~3/11) 第2回自動車学校入学説明会	
21	水		
22	木		
23	金	第3回英検	
24	土		吹奏楽
25	日	3年三者面談(センター試験受験者) 学校開放	
26	月		
27	火	2・3年桐原小論文講演会	美術
28	水		美術
29	木		
30	金		美術
31	土	土曜補習 3年2次対策模試	吹奏楽

注意→本校の推薦入学者選抜・スポーツ推進指定校推薦入学者選抜に係る日程については省略させていただきます。



第1位 上田千浩さん (1年)
対象本: 「よつばと」
作者: あずまきよひこ
出版社: アスキー・メディアワークス

【紹介コメント】
元気な五歳の女の子 小岩井よつば
何気ない毎日の中で様々な
はじめてに出会い 感動に触れていく。
そんなよつばの愛おしい日々を描いた
日常マンガです。

読書週間にPOPコンテスト実施
11月9日までの読書週間に合わせ、図書委員会では書籍紹介の「POPコンテスト」を実施。応募全20作品の中から、投票で上田千浩さん(1年)の作品が1位に選出され、豪華景品が贈られた(はずだ)。また、11月11日には「古雑誌市」も開催。図書館の保存期間が過ぎた雑誌の無料配布があり、事前に引換券を入手した生徒が喜んで持ち帰っていた。

人権週間を迎えて

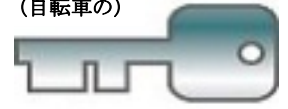
人権週間とは
国際連合は世界人権宣言が採択された12月10日を「人権デー」と定め、日本でも昭和24年から毎年12月10日を最終日とする1週間(12月4日から10日まで)を、「人権週間」と定め、人権尊重思想の普及高揚を図るため、全国各地でも集中的な啓発活動を行っています。

- 三刀屋高校では12月の人権週間に先だって、11月のLHRを利用して人権・同和教育の公開授業を実施しました。
【1年】…「言い方次第で気持ちも変わる」
日常起こり得る場面を想定してロールプレイを行い、事後のシェアリングによってその時の自分や相手の気持ちを確認。言い方によって良好な対人関係を構築できることに気づきました。
【2年】…「教科書無償化への取り組み」
教科書無償化のために動いた人々の姿を振り返りながら、憲法に保障された権利を獲得するための被差別部落の人々の取り組みが、社会全体の利益につながったことを理解し、人権を守るための主体的な態度や行動の大切さを学びました。
【3年】…「結婚差別から考える」
一学期の「公正な採用選考・公正な入学選抜」に続き、現実の社会に今なお残る結婚差別の具体的事例から、他人事ではなく、自分自身が問題に直面した時にどのような行動を取るべきかを考えました。

- 高校生世代『人権の詩』影山朋未さん(1年)入賞 (本紙3面に関連記事)
- ノーベル平和賞受賞のマララさんのスピーチを配布
受賞直後に、学校でインタビューに応じた際のスピーチを、同世代の高校生にも知ってもらいたいと校長が全校に配布しました。彼女にとっては第二言語である英語によるそのスピーチは、シンプルかつ心に響くものでした。

鍵かけ甲子園

(自転車の)



施錠不安は解消できたか？

安心・安全な社会を作るためにも

島根県警が初の試みとして実施した「秋の鍵かけ甲子園2014」の結果が公表され、出雲高校が施錠率約98%で最優秀賞を獲得した。

大会には本校を含む県内31校が参加。警察署員が10月から11月にかけて3回、各校に赴いて施錠状況を抜き打ちチェック

クした。各校でも啓発活動を重ね、県全体では1回目の調査に比べて3回目には3・6ポイント増の79・6%と施錠率がアップし、一定の効果もあげたようだ。

そして三刀屋高校の結果は如何に？各校個別の数字は公表されていないが、11月7日の本校チェック状況を聞くと、162台中21台が無施錠だった

【鍵かけ甲子園とは？】島根県内で盗難被害にあった自転車の無施錠率が近年85%前後で推移し、3年連続で全国ワースト1位となった。昨年の自転車盗難被害が778件、そのうち高校生被害が267件と高かったのを受け、鍵かけ意識の向上を図って島根県警がはじめて実施した。

さんこう 三高90年物語

(赤名トンネル・頓原道路開通50周年) 第5回 道路・通学状況の変化



西暦	和暦	全校生徒数	寮生	下宿生	備考
1967	昭和42	961	69	67	団塊世代の在学ピークは越えたが、生徒数は千人近かった。(55人学級)
1969	昭和44	831	65	70	現教室棟竣工の年 三刀屋トンネル竣工
1972	昭和47	804	52	68	54号線全通の翌年。雲南警察署前のバイパス(現54号線)はまだなかった。
1982	昭和57	725	63	40	島根国体開催の年。県内の54号線はほぼ現在のルートになっていた。
1992	平成4	800	58	26	第2次ベビーブーム世代が在学し、進学が最も難関の時期だった。



↑頓原道路の料金所があった付近には、道の駅ができて賑わっている。

島根の過疎化を進める大きな引き金となったのが昭和38年の豪雪(サンパチ豪雪)だが、東京オリンピックが開催された翌39年には国道54号線の広島県境の難所赤名峠の下に「赤名トンネル」が開通。あわせて急坂と数多くの屈曲が続く旧国道のバイパス的役割を担っ

て「頓原道路」が開通した。ちようど50年前の事だ。後者は頓原の町を過ぎた花栗地区から青雲トンネルまで続く有料道路で、昭和56年に無料化されるまでであった。料金所の跡は、現在道の駅頓原ができて賑わっている。昔は冬季の豪雪により陸の孤島の状況に陥る危険もあったが、これらの開通によって道路状況は飛躍的に改善されるとともに、昭和40年代から50年代にかけてのマイカーの普及にも支えられて、飯南町方面からの通勤通学にも変化をもたらした。

時期を同じくする高校進学率の高まりは、雲南市に隣接する飯南町からも三刀屋高校への進学者の漸増傾向をすすめ、昭和50年代には全校で50名前後を数える時期もあった。ただ、道路状況が次第に改善されたとは言っても、飯石郡内の国道から離れた地域や仁多郡からの入学者も多く、上表のように寮生や下宿生が多かった。現在では飯南町の中高一貫教育もあって同町からの本校入学者は少なく、遠方からも自宅通学者が多くなって入寮者は激減した(今年度は寮生17名)。一方で、朝晩は保護者による車の送迎で、学校近くの道路が混みあうようになった。



↑昭和20年頃の上町商店街(「みやの歴史」旧三刀屋町教委発行より)※この商店街のバイパスとして三刀屋川沿いの現国道の道が陰陽連絡のメインルートだった。

犯罪に利用されることもある。自分の自転車を守ると同時に、自分を含む社会全体の犯罪抑止のためにも施錠してもらいたい。今日では、そういう考えに立つことも必要だろう。安心安全な社会づくりのため

↓昭和20年代(「母校今昔 写真で綴る70年」より)



出雲市方面

先日の一年生「地域産業研究」発表会では、生徒や来賓の皆様から「実際の働く場は地味な仕事の連続だが、意味のない仕事はない。」という旨の発言が相ついで。そして「目の前にある課題に向き合って、勉学にもこれまで以上に励みたい。」という生徒の決意が伝わってきた。最後の発表者A君がその思いをまとめてくれた。「会社(勉強)とかけて」「飛行機と解きます」その心は「ついで楽(墜落)してはいけません」三高キャリア教育の成果に触れる年の瀬だった。(編集長記)

編集後記

新制三刀屋高校が誕生した昭和20年代。写真中央の横にまっすぐ見えるのが三刀屋川。これと並行して後の国道54号のルートが走る。左隅に上下(南北)にかすかに見える筋が今も出雲市につながる道。その反対側は、後に国道314号となる道で、白矢印の起点の位置に見える黒点は、54号と314号の交差点位置にあった一軒家。江戸時代に在郷町として発展した三刀屋と木次の中心部は家も密集していたが、今は四車線道路となって店舗が立ち並び写真の位置は家もほとんどなかった。高校下からは、斐伊川の旧里熊橋(現在よりもやや上流にあった)までの約4kmを、遮るものもなく直線状にのぞむ事ができたという。

であり、そうした意味において人権感覚が問われる場でも

ある。無施錠の君はそれでも施錠しない？